

ナミキ アート プラス

並木のパブリックアートプロジェクト記録集

Namiki Art Plus: A Public Art Project in Namiki



金沢シーサイドタウン 作品展開マップ

Kanazawa Seaside Town | Art Map



2020 年度

- キム・ガウン 「旅がくれた贈り物」
KIM Gaeun, *A Gift From Journey*
- 池田光宏 「BGA プロジェクト／横浜・並木のアートシーン」
(金沢センターシーサイドショッピングセンターアーケード)
IKEDA Mitsuhiro, *BGA Project / Namiki Yokohama Art Scene*
(Installed in the shopping center arcade)
- orangcosong 「演劇クエスト」配布場所 (並木ラボ)
orangcosong, *Engeki Quest*, distribution spot (Namiki Lab)

2019 年度

- BankART School 出張編「金沢区とみなとみらい」
BankART School Visiting Courses "Kanazawa-ku and Minatomirai"
- 猫の小林さんとあそぼう！プロジェクト
Let's Play! with Mr. Kobayasahi, the Pink Cat Project



ナミキ アート プラス

並木のパブリックアートプロジェクト記録集
Namiki Art Plus: A Public Art Project in Namiki

2 ごあいさつ
Foreword

3 ナミキアートプラスとは
About Namiki Art Plus

パブリックアートのプログラム | Public Art Programme

4 キム・ガウン
「旅がくれた贈り物」
KIM Gaeun
A Gift From Journey

12 池田光宏
BGA プロジェクト／横浜・並木のアートシーン
IKEDA Mitsuhiro
BGA Project / Namiki Yokohama Art Scene

まちあるきのプログラム | Town Walk Programme

20 orangcosong (住吉山実里＋藤原ちから)
「演劇クエストー白昼のバスケット冒険団とふしぎな依頼人たちー」
orangcosong (SUMIYOSHIYAMA Minori + FUJIWARA Chikara)
Engeki Quest : The Daylight Basket Adventurers' Guild and Mysterious Clients

26 ナミキアートプラス 来場者アンケート
Namiki Art Plus Visitor questionnaire

30 YOKOHAMA AIR ACT 2019 年度活動記録
YOKOHAMA AIR ACT 2019 Activity Report

36 まちに現れたアート
ー 公・私の交差点としてのパブリックアートの可能性 ー
Art that appeared in the town
-Potential of public art as a public / private intersection-

ごあいさつ

Foreword

金沢区並木で、アートプロジェクトをやってみようと思いついたのは、2019年のことです。これは街の中で展開するアートの取り組みを横浜の中心部だけではなく、もっと横浜の全域に広げようという横浜市芸術文化振興財団の要請に応じたものでした。並木地区を候補に挙げたのは、かなり漠然とした理由だったと思います。知り合いの実家があるという話、しばらく前に三重県の大きな団地を見学し、そこで生活する人たちと意見交換をしたこと、私たちの活動拠点との距離感、その程度の思いつきだったのですが、プロジェクトを進めるうちに、私たちはこのエリアの背景について、多くのことを学びました。これには1年目実行委員会のメンバーだったBankARTのレクチャーシリーズも大きな役割を果たしています。

私たちは期間限定のパブリックアートを設置すること、地域の人たちとアーティストの交流の機会をつくることを計画しました。たとえ期間限定とはいえ、パブリックアートの設置には多くの人たちの協力が必要です。なによりも地域のみなさんに理解していただくことが前提になります。そのためにはアーティストがなにを考え、何を作ろうとしているかを、ていねいに伝え、見えるようにすることが必要です。私たちはワークショップを行い、制作を公開することを通して、地域の皆さんとアーティストの距離を縮めることを試みました。

この冊子は2年間にわたる活動の報告です。私はこのような活動が、一時的であれ、街の見え方を変え、アーティストにとって貴重な成長の機会になることを期待しています。

このような事業が2年だけで終わらず、何らかの形で引き継がれていくことが必要だと思います。

今回ご協力をいただいたすべてのみなさんに、深くお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

YOKOHAMA AIR ACT 実行委員長 山野 真悟

ナミキアートプラスとは

About Namiki Art Plus

横浜南部に位置する金沢区に、1970年代から1980年代にかけて段階的に整備された金沢シーサイドタウンは、槇文彦をはじめとする著名な建築家や都市計画家が計画に関わり、「ヒューマンスケール」をコンセプトとしてデザインされた街並みが特徴の一つです。

この街を舞台としたアートプロジェクト「ナミキアートプラス」は、人々が日常の中でアート作品と出会うことで、街にどのような変化がもたらされるのかを考える企画です。

2019年度に開催した「猫の小林さんとあそぼう！プロジェクト」によって、私設診療所の一角に設置したアート作品「ピンクの猫の小林さん」は、人々に大きなインパクトを与えました。「街の見え方が変わっておもしろい」「こんなことをできる街はすばらしい」など、作品だけでなく街自体に目を向けた声も多くありました。

2020年度はこの流れを汲みながら、二組のアーティストが期間限定のパブリックアートを制作し、それぞれここで暮らした経験や見た風景をもとに描いた絵画と、ここで暮らす人々の芸術性に目を向けてデザインしたカラフルな旗によって街中を彩りました。そして、同時にまちあるきプログラムを展開し、海の名残を留める風景や街区ごとに変化する建物、大小さまざまな路地など、街の歴史や文化を架空の物語に沿ってめぐる「冒険の書」を配布しました。

金沢シーサイドタウン開発のはじまりから、50年の節目を迎える2021年。人と人の交流や遠くへの移動が難しい状況だからこそ、私たちは今、街そのものを見つめ直す時間が与えられたのかもしれない。その中で「ナミキアートプラス」は、アーティストたちの視点によって普段の生活では見過ごされがちな街の魅力を再発見し、街の公共性について考えるきっかけをつくりました。

Kanazawa Seaside Town, in Kanazawa ward, south of Yokohama, had a series of improvements through the 1970s and 80s. Part of the Kanazawa Reclamation Project - one of six major redevelopment projects in Yokohama - the cityscape was designed with “human scale” as its concept, by famous architects such as Fumihiko Maki and city planners.

Planned with the intention of transforming the town with art, “Namiki Art Plus” is a project that uses urban spaces as a stage, giving people an opportunity to encounter artworks as they go about their everyday lives.

Mr. Kobayashi, the Pink Cat that appeared on the corner of a private clinic about a year ago as part of the “Let’s play! with Mr. Kobayashi, the Pink Cat” project had a big impact on people. It encouraged them not only to look at the artwork, but to see the whole town with a new perspective, and many were pleased to be part of a town where such things could happen.

Following this trend, two artists put together a temporary exhibition of public art, colouring the town with drawings inspired by the local scenery and their experience of living in the area, and colourful flags bringing out the artistic nature of the local people. At the same time a walking tour of the town was developed, with an “adventure book” depicting a story that runs parallel to history and culture of the town’s roads of various sizes, buildings that change from block to block, and landscape that still retains some echoes of the sea.

2021 marks the 50th anniversary of the development of Kanazawa Seaside Town. This could have perhaps been seen as an opportunity to look again at the city we live in, during a time where it has been difficult for people to interact or travel long distances. Under such circumstances, “Namiki Art Plus” aimed to rediscover the overlooked charms of this ordinary town through the perspectives of the artists, and create an opportunity to think about the public nature of the town.

YOKOHAMA AIR ACT Executive Committee
TATEISHI Saori

YOKOHAMA AIR ACT 実行委員会 立石 沙織

キム・ガウン 「旅がくれた贈り物」

「クマとウサギの旅」をテーマに、絵画や絵本、ジュエリーなど、作品を制作するキム・ガウン。今回は並木に約2ヶ月間アトリエを構え、ここで出会った人や文献等を通じて知った歴史や文化、目の前にある景色を取り込みながら5つの風景を完成させた。

この一連の作品シリーズ「旅がくれた贈り物」では、並木の様々な場所をクマとウサギが旅する中で、たくさんの友人である生き物に出会う様子が描かれる。クマとウサギは、自分と他人の関係性、自分の中にある二面性を表している。異なる人格をもつふたりの旅は、私たちの人生に読み換えることができる。キム・ガウンの作品は、いつも人生は一期一会の積み重ねでありそのすべて奇跡であるということ、そして私たち一人ひとりの存在が尊いものなのだということを語っている。

KIM Gaeun creates a wide variety of works such as paintings, picture books, and jewelry with the theme of "a bear and rabbit's journey". For this exhibition, she set up a studio in Namiki for two months and completed five landscape drawings inspired by the history and culture she encountered through the people and literature on the area, as well as the surrounding scenery.

In this series of works *A Gift From Journey*, the bear and the rabbit travel through various places in Namiki and meet many friendly creatures. The bear and the rabbit represent our relationship between ourselves and others, as well as two sides of the self. The journey of these two characters with different personalities could be seen as a representation of our own lives. Life is a miraculous culmination of one-in-a-lifetime experiences. Kim's works illustrate how the existence of every person is precious.

《君に会う》

頭に王冠を載せた大きな鳥は、越冬のためにこの地に飛来した何百羽という水鳥の象徴であり、さらにはキムが今回の滞在を通して出会ったたくさんの人々を表現している。クマとウサギがこの鳥と出会い、花を贈ろうと手を差し延べようとする情景に、街との出会いを通して多くのギフトを受け取ったキムからの感謝の思いが込められている。

Meet you

The large bird with a crown on its head is a symbol of the hundreds of waterfowl that flock to the area during winter, and also represents the many people Kim met during her stay. The scene where the bear and the rabbit meet this bird and reach out with flowers is an expression of Kim's gratitude, who received many gifts through her encounter with the city.

Size: (h)3.6 x (w)6.3 x (d)0.3m [右 /Right]

(h)1.2 x (w)1.2 x (d)0.3m [左 /Left]





《たそがれる》

大きさや形がさまざまな絵を場所に合わせて複数配置し、一本の木を望むように設置されたベンチも含めて丘の上一帯が作品の一部となるように展開した。やがて来る新しい季節に思いを巡らせる作品。

Twilight

A small hill with a bench installed next to a tree becomes part of a work of art, surrounded by multiple drawings of various sizes and shapes. An artwork that encourages thoughts on the scenery as it welcomes a new season.

Various sizes



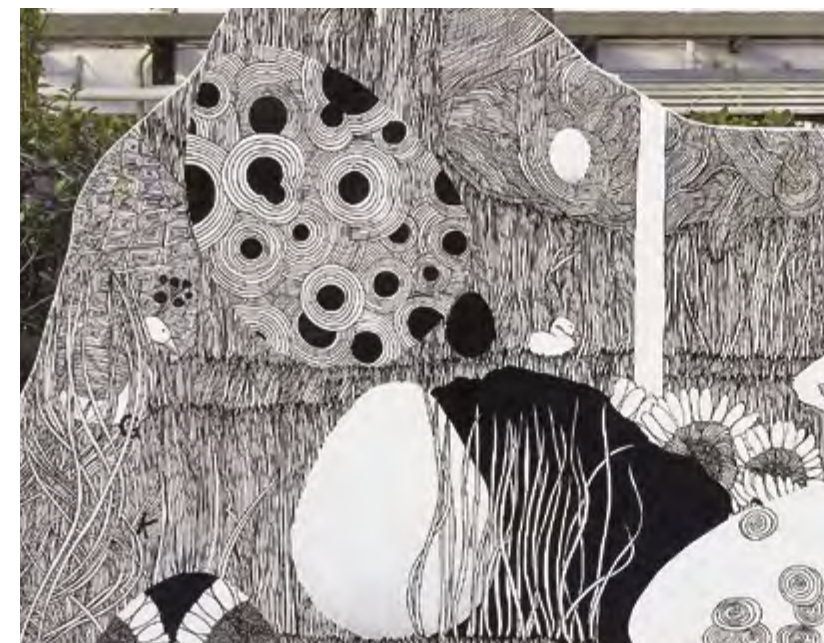
《ここにいる》

何かのはじまりやエネルギーの源泉を予感させるタマゴと、それらを産み育む存在である鳥たちが描かれた半立体のオブジェ。水の無い徒渉池の中に配置された。

I'm Here

An installation arranged in a waterless pond, depicting eggs—a symbol of new beginnings and energy—and the birds that give birth to and nurture them.

Size : (w)3.8x(h)2.9m





《願う》

公園内のあずまの天井に、富岡八幡宮の祇園舟神事で用いられる青茅の小舟、鎮魂の祈りを捧げるクマとウサギ、それらを雄大に包み込もうとするクジラを描いた作品。本作品は、「残して欲しい」という多くの声により、同年3月31日まで会期を延長して展示した。

Wish

Drawn onto the ceiling of an old pavilion, this piece depicts a whale magnificently wrapped around a small grass boat used in the Gion-bune ritual at the Tomioka Hachiman Shrine Festival, and the bear and the rabbit praying for the peace of souls. This artwork was made during a residency that was extended to 31 March, in response to a large number of people requesting a more permanent artwork.

Size : 3.6 x 3.6 m



《海を想う》

かつて海だった場所に位置する商店街の壁面には深海の世界を描いた。多種多様な生き物が共生する様子は、私たちの住む世界もまた、多様性に満ち溢れていることを示唆している。

Thinking about the sea

Along the wall of a shopping street that was part of the sea, appears a drawing of the deep sea world that might have once existed here. The scene, in which a wide variety of creatures coexist, also hints to the diverse world that we live in today.

Size : (w)3.7x(h)4.5m

制作のプロセス Process

① **リサーチ** 並木に何度も足を運び、どんな場所に作品が現れたら面白いのか、どんな旅の風景がその場所に合うかをひたすら想像し、作品プランを検討した。

① **Research** First Gaeun walked around Namiki a number of times, looking for places it would be interesting for artworks to appear, and what kind of scenes would suit the area.



② **アーティスト・イン・レジデンス** 並木一丁目の団地の中に、滞在場所を確保。並木で生活をしながらの制作活動を行った。

② **Artist in Residence** She then arranged a place to stay for the duration of their residence in a housing complex in Namiki 1-chome. At this point she began creating the artworks.

③ **作品制作** 12月から1月の極寒の中での制作活動。このプロセスによって、多くの地域の人々と出会い、対話することができた。

③ **Production** Production activities in the frigid cold from December to January. I even stuck 12 hokkairo at once! However, this process also allowed me to meet and talk to people in many areas.



並木第一小学校の児童との交流
Interaction with the children of Namiki Daiichi Elementary School.

まちでアート活動を行うことの効果は、
どのようなものだとお考えでしょうか？

作品を展示するということは、作品とそれを見る人との関係、つまりコミュニケーションだと思っている。

アーティストが制作を行う中でその場所の風景や人々と出会うことも、拡張されたコミュニケーションである。このような出会いの上に、アーティストは直接的ではなくともその街で感じた跡形を何かしらの形で作品に反映していくことで、街でアート活動をする根本的な意義や、街の人の心に伝わるより深いコミュニケーションに通じていくと信じている。(キム)

今回の企画に参加して、人々や街など、
変化したとを感じるもの／ことはありますか？

最近までギャラリーでの作品展示を主な活動としてきた私が、並木の人々と関わったことで気づいたことがある。それは、アーティスト本人が始めから最後まで制作のプロセスを楽しむように、制作段階から出来上がるまでの様子を目撃している街の人々もまた、それと似たような楽しさを感じているということだった。つまりお互いに共感することで、時間がたつにつれて応援してくれる人が増えたり、ナミキアートプラスを自分のことのように心から喜んでくれる人が増えたりするのを感じた。そのような人々から一言で説明はできない感動をもらい、アーティストとしての自分自身の変化を感じるきっかけにもなった。(キム)

What effect do you think this kind of art production in the town has?

I think of exhibiting artworks as a relationship between the artwork and the people that view it. In other words, a type of communication.

When an artist works in that space, meeting the people and taking in the scene as they do so, it is an extension of this communication. Even if the artist does not depict what they experience directly, their reflections on these encounters are present in the artworks. I believe this is the real meaning of producing art in the town, and instigates a deeper level of communication that reaches the hearts of the people of the town. (KIM)

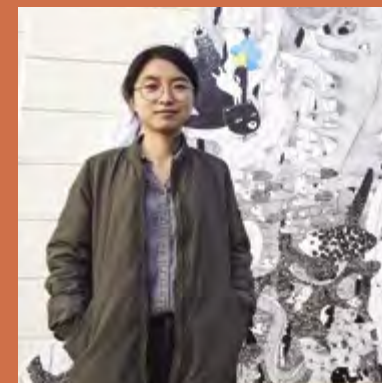
Do you feel that this project instigated any changes in the people or town, etc.?

Until recently I had mostly exhibited my work in galleries, but through this project I realised how involved I was with the people of Namiki. The people who watched the process from beginning to end, got a similar enjoyment out of the work as I do as an artist. In other words, I felt that we had mutual compassion for one another. As time went on, I felt more people were cheering me on, and really appreciating Namiki Art Plus from the bottom of their hearts. I was so impressed by these people in a way I can't put into words, it became a change for myself as an artist as well. (KIM)

Profile

キム・ガウン

KIM Gaeun



画家、絵本作家、ジュエリーデザイナー。
韓国、日本、イタリアなど幅広く活動。
2010年 School of Leonardo Da Vinci (イタリア) 修了。2013 年韓国芸術総合学校建築学部卒業。2017 年絵本『君は僕のプレゼント！』出版。2018 年に渋谷ヒカリエ 8 で、2019 年にイタリア Pinacoteca Provinciale di Salerno で個展を開催。2019 年から黄金町アーティスト・イン・レジデンスに参加。

Painter, Picture Book Author, Jewellery Maker.
Works in many places, including Korea, Japan and Italy. Completed studies at the School of Leonardo Da Vinci (Italy) in 2010. Graduated in Architecture from the Korea National University of Art in 2013. Published *You are my Gift!* in 2017. Solo exhibitions include Shibuya Hikarie 8 in 2018, and Pinacoteca Provinciale di Salerno (Italy) in 2019. Koganecho Artist in Residence since 2019.



IKEDA Mitsuhiko

BGA Project / Namiki Yokohama Art Scene

池田光宏

「BGAプロジェクト／横浜・並木のアートシーン」

BGAとは、バック・グラウンド・アートの略であり、玄関に飾られている置物や、お店に何気なくかけられた絵画、旅先で集めたコレクションなど、日常の中にある多様な美術品にスポットをあてるプロジェクト。池田光宏はこれまで柏(千葉)、長岡(新潟)、府中(東京)などでこのプロジェクトを展開してきた。

今回は、並木の住民やお店から集めた22点のプライベートコレクションを、架空の展覧会の広告バナー(旗)のように仕立て、商店街のアーケードに展示。色とりど

りのバナーは、日によって風に揺られながら、街の日常的な風景に祝祭感を加えた。

「パブリックアート」とは、誰もが身近にアートに触れることができる機会であると同時に、「公共」とは何かを問う機会でもある。アートは美術館などの公共施設や特別な場所だけでなく、私たちのすぐそばにもある。本プロジェクトは、「私」のコレクションを「公」としてひらき、多くの人と共有する試みである。



BGA is an abbreviation for background art, and is a project that highlights the many artworks that are around us in our everyday lives, such as figurines displayed in entrances, paintings casually hung up in shops, and collections of travel souvenirs. It is a project that Ikeda has carried out in a number of places including Kashiwa (Chiba), Nagaoka (Niigata) and Fuchu (Tokyo).

For this exhibition, 22 private collections from the residents of Namiki were photographed and put onto flags made to look like advertising banners and then exhibited in the shopping arcade. These colourful banners would sway in the wind, creating a festive atmosphere in this everyday setting.

"Public art" is both a way for anybody to closely interact with art, and at the same time an opportunity for us to question what we mean by "public". Art is not just something that exists in public institutions such as art museums, but something that is all around us. In this project, "private" collections are made "public", with the aim of sharing these things with many people.



制作のプロセス Process



①コレクションの撮影 並木ラボに仮設の撮影スタジオをセッティング。コレクションを一時的にお借りして写真撮影を行った。

① Photographing the collection A temporary photography studio was set up in Namiki Lab. The private collections were then borrowed and photographed.

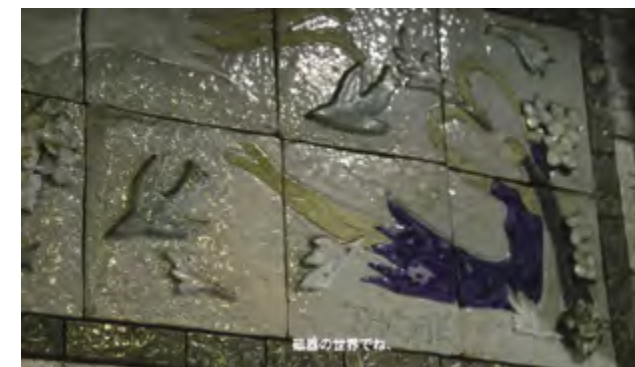


②バナーのデザイン コレクションの持ち主からの取材を元に、デザインに用いるコピーなどの文章を制作。

② Designing the banners Interviews were held with the owners of the collections, and their words were used to create text to go on the banners.

③バナーの展示 今回は、金沢センターサイド・ショッピングセンターのアーケードに展示。高さ 2m、幅 2.4m の大判バナーが風にはためきながら商店街を盛り上げた。

③ Banner exhibition The banners were exhibited in the arcade in Kanazawa Seaside Shopping Center, and a large 2 x 2.4 m banner brought excitement to the shopping area as it fluttered in the wind.



④コレクションの持ち主のインタビュー映像の配信 コレクション持ち主の一部の方に、ショートインタビューを実施。そのコレクションとの出会いや思い出などを話していただいた。

④ Interviews with the owners go online Short interviews were conducted with some of the owners, to talk about some of the stories and memories they have about their collection.



インタビューは引き続きウェブ上でご覧いただけます。

The interviews are available to watch online.

まちでアート活動を行うことの効果は、
どのようなものだとお考えでしょうか？
また、今回の企画に参加して、人々や街など、
変化したと感じるもの／ことはありますか？

何らかの効果を期待して制作してるわけではありませんが、だからと言って何も起こらないとも思っていません。むしろ何が起こるかわからないけれど、試しに石を投げてみようという感じでしょうか。すると思いがけず誰かの創造性が顕在化することがあります。

今回の展示で、明かな変化といえば、たばこ屋さんの猫の置物の場所が変わったことです。お店の前にBGAプロジェクトのバナーが登場した直後、棚の右隅から左隅へと猫の置物は以前よりもお客さんから発見されやすい位置に移動していました。距離にして約60cm。ついでにその周りの商品棚も前より少し整ったように思えます。当然、置物がひとりでに歩けるわけがないので、これはきっと店主の仕業なわけです。少し大袈裟な言い方をすると、店主が意識して空間における猫の置物の関係性を再構成したインスタレーションと言えなくもないのではないのでしょうか。いや、やっぱり言い過ぎでしょうか…。

とてもささやかな事かも知れませんが、僕はプロジェクトを通じてこうした普通の暮らしの中で巻き起こる創造性の連鎖の瞬間に触れてみたいと思ってます。(池田)

What effect do you think this kind of art production in the town has?
Do you feel that this project instigated any changes in the people or town, etc.?

It's not that I make my work expecting any changes, but I don't believe that nothing happens either. It's more like, I don't know what's going to happen but I'll just try and see what happens. And then there are times somebody's creativity unexpectedly manifests itself.

The most obvious change that happened in this exhibition is the location of the cat figurine in the tobacco shop. Soon after the *BGA Project* banner appeared in front of the shop, the cat figurine moved from the right hand corner of a shelf to the left, where it was easier for customers to find. It moved about 60cm. The shelves around it looked a bit tidier than before too. Of course, the figurine didn't walk by itself, so this was probably the work of the shopkeeper. You could say the shopkeeper created an installation by consciously constructing the relation between the cat figurine and the space. No, perhaps that is too much of an exaggeration...

It may be a small thing, but through this project, I like to touch on these moments of connected creativity that occur in normal everyday life. (IKEDA)



Profile



池田光宏

横浜市金沢区出身。日本大学芸術学部卒業。東京藝術大学大学院修了。文化庁新進芸術家海外派遣にてスウェーデンに滞在。「他者の創造性との関わり」をテーマに制作。最近の主な展覧会に「こどもハウス劇場」東京都現代美術館、「きっとそれも誰かの仕業」長岡市栃尾美術館、「メイド・イン・フチュウ」府中市美術館、「恵比寿映像祭 地域連携プログラム」代官山ギャラリーAL、など。

IKEDA Mitsuhiro

Born in Kanazawa. Graduated from Nihon University College of Art, and completed a masters at Tokyo University of the Arts. Had a residency in Sweden as part of an Agency for Cultural Affairs program. Creates works based on the theme of "relationship with others' creativity". Major exhibitions include *Kids House Theatre* at the Museum of Contemporary Art Tokyo, *I'm Sure That's Someone's Work* at Nagaokashi Tochio Museum and *Made in Fuchu* which was exhibited at Fuchū Museum in December 2020.



orangcosong

(SUMIYOSHIYAMA Minori + FUJIWARA Chikara)

Engeki Quest : The Daylight Basket Adventurers' Guild and Mysterious Clients

orangcosong (住吉山実里＋藤原ちから) 「演劇クエストー白昼のバスケット冒険団と ふしぎな依頼人たちー」

横浜を拠点に国内外で活動してきた藤原ちからと住吉山実里によるコレクティブorangcosongは、舞台芸術の経験をベースとしたプロジェクトを各地で展開している。彼らの代表作の一つである『演劇クエスト』は、かつて子供たちの間で流行した「ゲームブック」になぞらえてつくる体験型の作品である。今回は、金沢シーサイドタウンやその周辺の街を舞台とした架空の物語をロールプレイングする「冒険の書」を制作し、配布した。

参加者は、商店街に位置するコミュニティスペース、並木ラボで「冒険の書」を受け取り、冒険者の一人として街に繰り出す。「ふしぎな依頼人」たちから出される依頼に応じていくかたちで、本に書かれた選択肢を選びながら歩くと、整備された時代によって異なる街並みや、シーサイドタウンと周辺地域の相関関係など、普段の生活では意識にのぼらない街の「境界」を体感することができた。

orangcosong, is a collective based in Yokohama run by FUJIWARA Chikara and SUMIYOSHIYAMA Minori, who develop projects based on their performing arts experience in Japan and abroad. Their piece, *Engeki Quest*, takes the form of an adventure gamebook that was once popular among children. Used to role play fictional stories set in Kanazawa Seaside Town and the surrounding area, the "Adventure Book" was produced and distributed for the duration of this exhibition.

Participants could pick up a copy of the "Adventure Book" at Namiki Lab, a community space located in the shopping area, and go out around the town as one of the adventurers. By walking along the options to answer the request of the "mysterious clients," boundaries and relationships between the town and the surrounding area that usually go unnoticed were highlighted, and different townscapes could be experienced according to the era in which they were developed.

「名うての冒険者が集まるギルド」として設定した並木ラボを出発し、まずは入団テストとして用意された短いチュートリアルコースを体験する。これをクリアすると、4人の「ふしぎな依頼人」からの依頼が届き、本コースへ進むことができる。

After departing Namiki Lab, which was set up as the "Famous Adventurer's Guild", visitors first went round a short tutorial course. Once this was cleared, they received requests from four "mysterious clients" and to proceed on with the course.





この作品は、本があればいつでも何度でも楽しむことができる。この複層的な時間の体験と、冒険する度に得られる新しい発見は、『演劇クエスト』の醍醐味である。この小さな本が5年10年と受け継がれるとき、見えてくる風景はおのずと変化するだろう。

This piece can be enjoyed at any time, as many times as you like, as long as you have the book. The multiple layers of experience and discovery that can be made each time you go on this adventure are the real thrills of this *Engeki Quest*. The little book will show changes in the landscape, as it gets handed down over the next 5, 10 years.



制作のプロセス Process



① **現地リサーチ** コロナ禍により、偶然出会った人から話を聴くような従来の方法は困難だったが、orangcosong の2人のみで現地を訪れるなどしてリサーチを重ねた。金沢シーサイドタウン周辺エリアも含め広範囲を歩いて構想を膨らませていった。

① **Research in Namiki** Despite the difficulties, due to COVID-19, of conducting research the usual way by talking to people they meet by chance, orangcosong did as much research as possible by walking around Kanazawa Seaside Town and the surrounding area, developing their ideas as they did so.



② **オンラインインタビュー** 同地区出身者や住民など、地域をよく知る人々の協力を仰ぎ、オンラインインタビューを実施。彼らの街を見る視点や個人史に、orangcosong が見つけた街の要素を織り交ぜて物語を完成させた。

② **Online Interviews** Interviews were conducted online with local residents and others who were familiar with the area. The stories were completed by interweaving the sites that orangcosong found around the town with the perspectives and personal histories shared in these interviews.

③ **トライアルウォーク** 内容がほぼ完成したところで、15名の人たちに試験的に参加してもらうトライアルウォーク期間を設けた。実際に歩くことでわかる「バグ」や、住宅地を歩く際の注意事項など、多面的なフィードバックを得ることで、より精度の高い内容に仕上がった。

③ **Trial walk** Once the content for the book was almost complete, a trial walk was set up with around 15 participants. After receiving feedback such as practical errors encountered when walking the routes, and precautions that should be taken while in residential areas, the final version was completed.

オンラインインタビュー協力が描いてくださったイラスト
(提供：[236-0005] 並木ウェブマガジン)

Illustration by an online interviewee
© [236-0005] Namiki Web Magazine



トライアルウォークの様子 (撮影：市村良輔)
Trial walk photo by ICHIMURA Ryosuke

まちでアート活動を行うことの効果は、どのようなものだとお考えでしょうか？

美術館や劇場は、様々な試みをしてはいるものの、まだ多くの人にとって敷居が高い場所かもしれません。この敷居はアートにも人間にもアンハッピーですよ。アートはもっと人々の生活や人生に寄り添い、それを豊かにしたり、変えたりできるはず。だったら、アートのほうが白や黒の箱から飛び出て、街に染み出していけば、美術館や劇場には滅多に來れない人(例えば子育てやお店の切り盛りで手一杯の人)たちの多様で多彩な人生とも混じり合うかもしれない。きっと次の時代のアートは、その(まさにふなだまりのような)汽水域から生まれてくると思っています。(orangcosong)

今回の企画に参加して、人々や街など、変化したと感ずるもの／ことはありますか？

コロナ禍のためにいつものようなやり方(居酒屋で常連さんと話すとか)はできませんでしたが、それでもリサーチの過程、そして「冒険の書」が徐々に人の手に渡っていくプロセスを通して、並木という街を愛し、地に足つけて生活・活動している人たちの姿が見えてきました。建物も地形も魅力的ではありますが、この街の最大の魅力はなんといっても、ここに生きる人たちだ、と思います。もしも自分がこの街に住んだらどんな時間を過ごすんだろう……と想像したり。いろいろなインスピレーションを受ける不思議な街で、まだまだ眠っている何かがある、と感じています。(orangcosong)

What effect do you think this kind of art production in the town has?

Despite the various efforts put in by museums and theatres, they often remain inaccessible to many. This is a sad situation both for art and people. Art should be able to enrich and transform people's lives and livelihoods in closer proximity. That way, if art could move away from white-box black-box spaces and seep into the towns, all kinds of people who cannot often go to museums and theatres (such as full-time child carers and shop owners) would also be able to interact with it. We're sure that arts of the next era will come from a place where seawater and freshwater mix, just like "Funadamari". (orangcosong)

Do you feel that this project instigated any changes in the people or town, etc.?

Although we weren't able to meet people as we normally would (locals in izakayas, for example) due to COVID-19, we were gradually seeing the people who love and live in the town during the research process and the period when they were getting the "Adventure Book". The buildings and the area are nice, but the biggest attraction of this town is the people who live here. It makes us wonder how we would spend our time if we lived here. It is a wonderful, mysterious town inspired by many things, it's as though there is something sleeping beneath its surface. (orangcosong)

Profile



© 加藤 甫 (KATO Hajime)

orangcosong
(住吉山実里+藤原ちから)

横浜を拠点にアジアで活動してきた藤原ちからと住吉山実里によるコレクティブ。舞台芸術の経験をベースに、プロジェクトごとに様々な他者と結びついて創作を行う。ある土地に長期滞在してリサーチを行ったり、観客と何らかの対話を試みる作品が多い。代表作に『演劇クエスト』『IsLand Bar』『筆談会』など。

orangcosong
(SUMIYOSHIYAMA Minori + FUJIWARA Chikara)

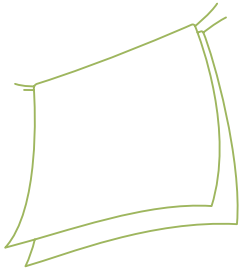
orangcosong are FUJIWARA Chikara and SUMIYOSHIYAMA Minori, who are based in Yokohama and travel around Asia. For each project, they connect with a variety of people based on the experience through performing arts practices. They often stay on long term residences for research, and try to start dialogues with their audience. Works include *Engeki Quest*, *IsLand Bar* and *Hitsudankai*.

ナミキアートプラス 来場者アンケート

Namiki Art Plus Visitor Questionnaire

講 評：上野 正也（神奈川大学工学部建築学科特別助教）

Review：UENO Masaya（Kanagawa University）



実施期間：2021年1月16日(土)~2021年1月31日(日)

回収方法：インフォメーションにて配布・回収、及びウェブ上で回答受付。

回収枚数：78枚

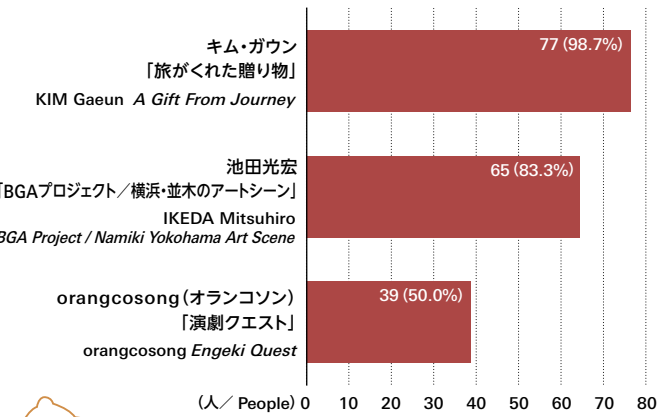
Implemented between 16th January – 31st January, 2021

Questionnaires were distributed and collected at the information point, or answered online.

Number of collections：78

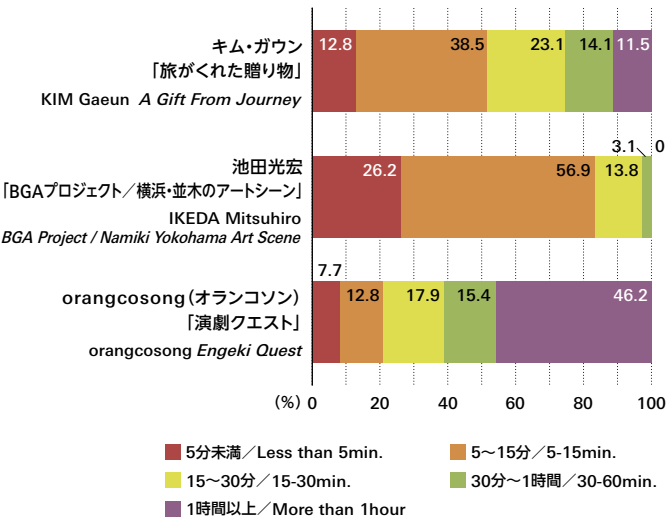
Q1 ナミキアートプラスの作品の鑑賞(体験)について、鑑賞した作品はどちらの作品ですか？

Out of the Namiki Art Plus artworks that you experienced, which did you enjoy the most?



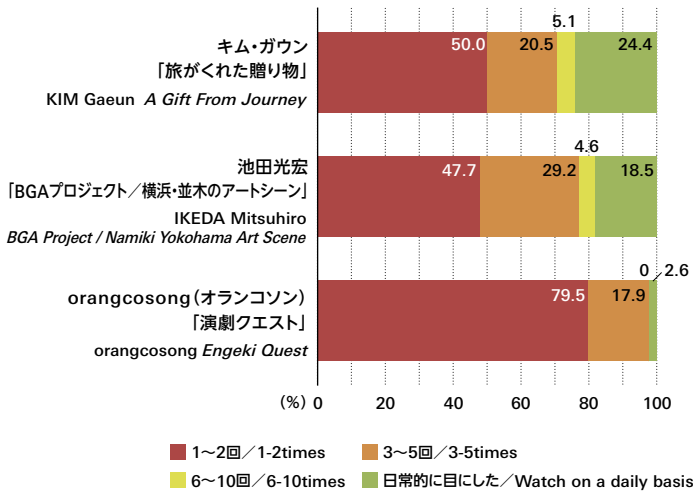
Q2 それぞれの作品の主な鑑賞時間はどのくらいでしたか

How long did you generally spend looking at the artwork(s)?



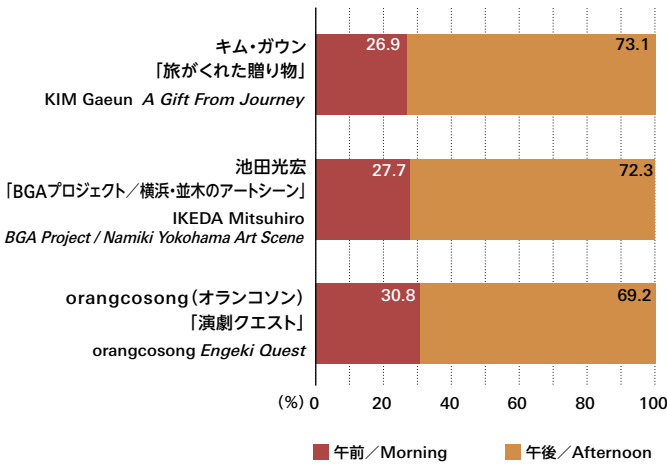
Q3 それぞれの作品を鑑賞した回数はどのくらいでしたか

How many times did you see the artwork(s)?



Q4 それぞれの作品の主な鑑賞時間帯は何時ごろですか

Around what time did you see the artwork(s)?



Q1,2,3,4 について キム・ガウン「旅がくれた贈り物」に関しては、アンケート回答者のほとんどが鑑賞しており、また、そのうちの半数以上が、15分以上の鑑賞時間を有している。作品がまちなかに点在していることから、回遊しながら作品鑑賞がなされたと推察される。

また、鑑賞の回数としては、半数が「1,2回」であるのに対し、「日常的に目にした」との回答も多いことから、日常生活において作品に触れる機会が創出されたといえる。

池田光宏「BGAプロジェクト／横浜・並木のアートシーン」に関しては、アンケート回答者の8割強が作品を鑑賞している。鑑賞時間としては「5分～15分」が最も多く、次いで「5分未満」が続く。その理由として本作品は商店街のアーケード部分にバナーとして展示するという形態であり、鑑賞に要する移動距離が長くないこと

が影響していると考えられる。

一方、鑑賞の回数としては半数以上が複数回鑑賞していることから、商店街というまちの中心部分で展示されたことによって、多くの鑑賞機会が創出されている。

orangcosong「演劇クエスト」に関しては、アンケート回答者の半数が作品を鑑賞している。本作品は、冒険の書を持ってまち中を回遊する体験型のアート作品となっていることから、作品鑑賞時間は他の2作品に比べ、長い時間となっており、作品鑑賞回数でみると、「1,2回」がもっとも多い結果となった。一方で「3～5回」という回答にみられるように作品体験の深度が伺える。また、本作品に関しては、会期にかかわらず体験可能であることから、継続的な作品体験の機会創出に寄与している。

なお、3作品共通して、作品鑑賞時間帯は主に午後の時間帯に鑑賞されていることがわかった。

Comment on Q1,2,3,4

Most of the respondents to the questionnaire saw KIM Gaeun's A Gift From Journey, and more than half spent over 15 minutes viewing them. This was due to the fact that Kim's artworks were scattered throughout the town, which meant many people saw them as they walked past.

As for how many times they saw it, around half of them answered "once or twice", but many answered that they "saw it on a daily basis". We can therefore say that we were successful in creating the opportunity to come into contact with art as part of everyday life.

More than 80% of the respondents to the questionnaire saw IKEDA Mitsuhiro's BGA Project / Namiki Yokohama Art Scene. Most of these spent "5 to 15 minutes" looking at the artworks, followed by "less than 5 minutes". This is probably because the artworks were displayed as banners in the shopping arcade without much distance between them, which

meant they didn't take long to see. On the other hand, over half of the respondents said they saw the artworks multiple times. It seems that many opportunities to see these works were created by exhibiting in the central shopping area.

Around half of the respondents to the questionnaire tried orangcosong's Engeki Quest. As an experience-based artwork that required travelling around the town with an adventure book, the time to enjoy this piece was longer than the other two. If we look at the number of times people tried it out, most answered "once or twice". However, we can get an idea as to the depth of this piece due to the fact that some answered "3 to 5 times". And as this work can be experienced any time, it adds to the aim of having a continuing art experience.

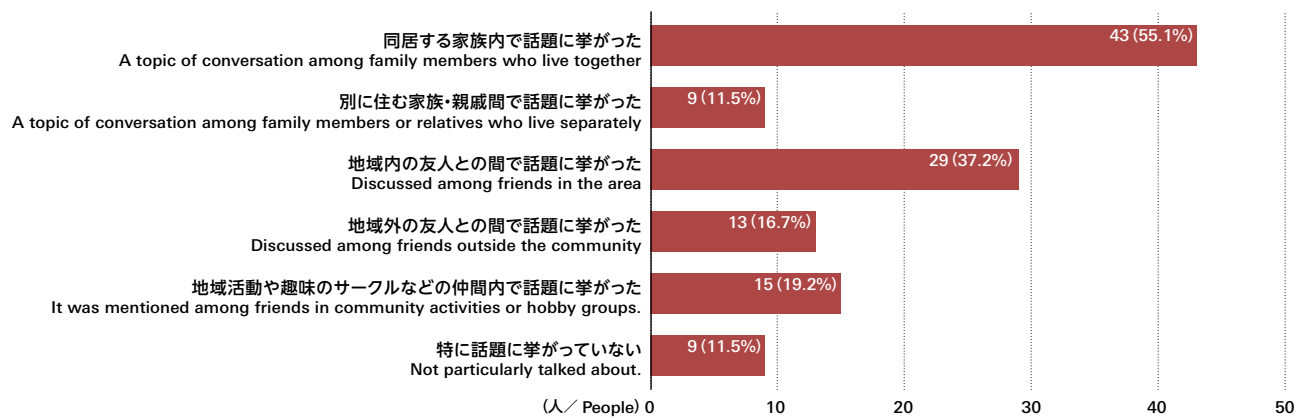
In addition, it was found that all three artworks were mostly enjoyed in the afternoons.



Q5 本項目は、当該プロジェクトの関心度を把握するために設定した。結果としては「同居する家族内で話題に挙がった (55.1%)」が最も多く、家族内における共通の話題として共有されていることがわかった。次いで「地域内の友人との間で話題に挙がった (37.2%)」が多い結果となった。その他、地域の内外を問わず様々な関係性の中で話題として挙げられている様子があった。このことから、本プロジェクトを通じて、アートという地域トピックが新たに創出されたといえる。

Q5 まちに設置されたアートについて話題に挙がりましたか？

Did you talk to other people about the artworks you saw in town?



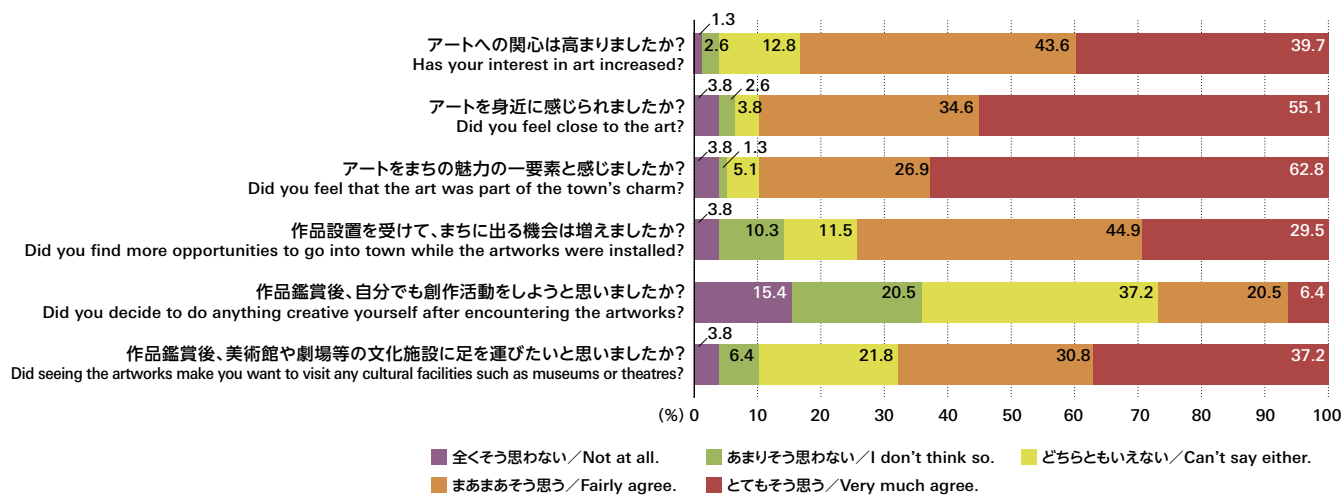
Q6 本項目は、作品鑑賞を通じた気づきから事業成果を把握するため設定した。結果としては、本プロジェクトを通じて、アートへの関心が高まり、また、アートを身近に感じられる機会を構築することができたといえる。また、アートがまちの魅力の一要素として捉えられていることもわかった。

さらには、そういったまちの魅力要素が加わることで、まちに出るきっかけに寄与している傾向が伺えたほか、美術館や劇場等の文化施設に足を運びたいという動機のきっかけづくりにも寄与しているといえる。一方で、自らが創作活動を行いたいという動機づくりへの影響は少ないこともわかった。今後の可能性としては、アートという新たなまち魅力の創造を継続するとともに、そこに関わる人の幅を広げ、アートをきっかけとした人的ネットワークを構築していくことが求められるといえる。

Comment on Q5 This question was asked to grasp the degree of interest in this project. As most people answered "I talked about the project with the people I live with" (55.1%), we can see that it became a common topic among families. "I talked about the project with local friends" (37.2%) came second, but from the answers we found that the project was also talked about with people outside the local area. Through this, we are now able to say that "art" has become a topic of conversation in the local area.

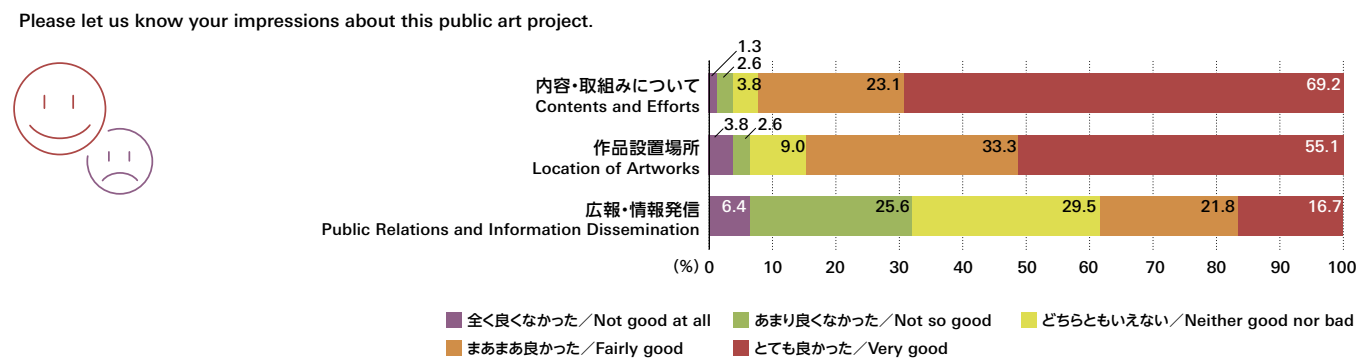
Q6 作品を鑑賞して気がついたことを教えてください。

Please tell us about anything you noticed after seeing the artworks.



Q7 まちにアート作品を設置する本取組みについて印象を教えてください。

Please let us know your impressions about this public art project.



Q7 本項目は、当該プロジェクト全般に関する印象を把握するため設定した。そして「内容・取組み」「作品設置場所」「広報・情報発信」の3点について回答を得た。傾向としては「内容・取組み」に関しては「とても良かった (69.2%)」となっており「まあまあ良かった」と合計すると9割となることから、取り組み内容自体は一定の評価を得たと言える。また、作品設置場所に関しても同様に8割強が「とても良かった」「まあまあ良かった」と回答していることから、鑑賞者にとって適切な設置場所であつたといえる。一方「広報・情報発信」に関しては、低評価の回答が多く、また、自由記述にも情報発信を強化すべきとの声が多く寄せられたことから、今後はより一層の強化が求められるといえる。

Comment on Q7 This question was asked to find out general impressions of the project. The question was divided into three points: the content of the art, the location of the artworks, and the publicity. The content was generally rated "very good" (69.2%), with a total of 90% rating it at least "somewhat good", so it can be said the artworks themselves were generally well received. Additionally, 80% answered "somewhat good" or "very good" in response to the location of the artworks, so we can say the artworks were installed in appropriate locations. However, many rated the publicity as very low, and many people voiced the opinion that the information was not well publicised in the additional comments section. This gives us a clear idea of what needs to be improved in the future.

YOKOHAMA AIR ACT 2019年度活動記録

YOKOHAMA AIR ACT 2019 Activity Report

初年度は、金沢区とみなとみらいの歴史を紐解く「BankARTschool出張編」と、

金沢シーサイドタウンで人々とアートの出会いの場をつくる「猫の小林さんとあそぼう！プロジェクト」を実施した。

In the first year, two projects were carried out: the "BankARTschool Business Trip", which aimed to share the history of Kanazawa Ward and Minatomirai, and "Let's Play with Mr. Kobayashi the Pink Cat!", which created places for people to interact with art in Kanazawa Seaside Town.



横浜市六大事業の当時の行政、企業、自治会、研究者など様々な立場の関係者を講師とし、計5回の連続講座を開催。延べ120名が参加した。金沢区と都心部の歴史的なつながりを重層的に学び直す機会をつくり、建築家の槇文彦氏や地域政策プランナーの田村明氏をはじめとするキーパーソンの存在を通して、同事業の先進性と革新性を伝えた。

Five consecutive lectures were held with representatives from those involved in the six major Yokohama development projects, such as the government, businesses, residents' associations and researchers. A total of 120 people participated, and learned about the historical connections between Kanazawa Ward and the city center from multiple perspectives. The advancement and innovation of this project was conveyed through the presence of key speakers such as the architect MAKI Fumihiko and regional policy planner TAMURA Akira.



「みなとみらいの誕生－中区と金沢区との関係をテーマに」
講師：恵良隆二(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事)
会場：BankART Station (西区みなとみらい5-1 新高島駅B1F)

1974年に三菱地所に入社後、横浜みなとみらい21事業やドックヤードガーデン保全活用計画等に関わった恵良氏が、みなとみらい地区誕生の経緯について解説した。

Birth of Minatomirai – On the Relationship Between Naka Ward and Kanazawa Ward

Lecturer: ERA Ryuji (Senior Managing Director, Yokohama Arts Foundation)
Venue: BankART Station (5-1 Minatomirai, Nishi-ku, Shin-Takashima Sta.B1F)

Mr. Era, who was involved in the Yokohama Minatomirai 21 project and the dockyard garden conservation and utilization plan after joining Mitsubishi Estate in 1974, explained the background of Minatomirai.



「六大事業はどう構想されたか」

講師：鈴木伸治(横浜市立大学国際教養学部都市学系・大学院都市社会文化研究科 教授)
会場：横浜市立大学いちろうの館 多目的ホール(金沢区瀬戸22-2)

都市計画や都市デザインを専門に研究する鈴木氏が、1960年代の飛鳥田市政において横浜市六大事業がどのように構想されたかを、当時の貴重な資料を紐解きながら解説した。

Envisioning the Six Major Projects

Lecturer: SUZUKI Nobuharu (Professor, Graduate School of Urban Social Culture, Faculty of International Liberal Arts, Yokohama City University)
Venue: Yokohama City University Ginkgo Hall Multipurpose Hall (22-2 Seto, Kanazawa-ku)

Mr. Suzuki, who specialises in urban planning and urban design, explained how the six major projects of Yokohama were conceived in the Asukata municipal administration in the 1960s, with some valuable documents from that time.



「金沢シーサイドタウンと都心部強化事業」

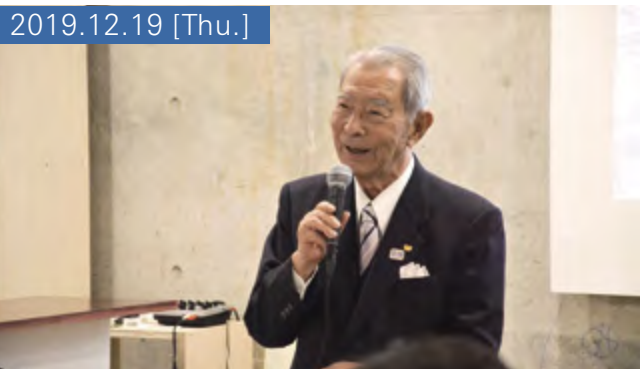
講師：遠藤包嗣(NPO法人田村明記念・まちづくり研究会 理事)
会場：並木ラボ(金沢区並木1-17-7、1F)

横浜市職員として横浜市六大事業の企画調整を担当した遠藤氏が、金沢区先埋立事業(金沢区)と都心部強化事業(みなとみらい地区)の関係や金沢区における計画の内容について解説した。

Kanazawa Seaside Town and City Center Strengthening Project

Lecturer: ENDO Tsuguharu (Director, Akira Tamura Memorial / Machizukuri Study Group)
Venue: Namiki Lab (1-17-7 Namiki, Kanazawa-ku, 1F)

Mr. Endo, who was in charge of planning and coordinating the six major projects of Yokohama, explained the relationship between the Kanazawa Ward landfill project (Kanazawa) and the city center strengthening project (Minatomirai) and the plans for Kanazawa Ward.



「旧市街地とみなとみらい」

講師：金子勝雄(西区連合町内会・自治会連絡協議会 会長)
会場：BankART Station (西区みなとみらい5-1 新高島駅B1F)

40代の頃に横浜市議を2期経験し、2018年からは西区連合町内会会長を担う金子氏とともに、横浜市六大事業によって変化した西区の旧市街地とみなとみらいの関係について振り返った。

The Old Town and Minatomirai

Lecturer: KANEKO Katsuo (Chairman of Nishi Ward Union Neighborhood Association / Residents' Association Liaison Council)
Venue: BankART Station (5-1 Minatomirai, Nishi-ku, Shin-Takashima Station B1F)

Having sat on Yokohama City Council for two terms in his 40s, in 2018, Mr. Kaneko, the chairman of the Nishi Ward Union Neighborhood Association, looked back with us at the relationship between the older Nishi Ward and Minatomirai, which changed through the six major projects of Yokohama.



「鎌倉と金沢」

講師：今井信二(元横浜市職員)
集合場所：京急線 金沢八景駅(金沢区瀬戸15-1)

金沢区役所を振り出しに、主に文化・文化財・創造都市等の分野の仕事を経任した今井氏とともに、古都鎌倉の一部だった金沢区の都心部とは違った歴史的魅力を探すまちあるきを行った。

Kamakura and Kanazawa

Lecturer: IMAI Shinji (former Yokohama City employee)
Meeting place: Keikyu Line Kanazawa Hakkei Station (15-1 Seto, Kanazawa Ward)

A walk around the town with Mr. Imai, who has worked in the department of culture and creativity at the Kanazawa Ward office, to look at historical attractions a little different from central Kanazawa, which was once part of the ancient city of Kamakura.

「猫の小林さんとあそぼう！」プロジェクト

"Let's Play! with Mr. Kobayashi, the Pink Cat" Project

アーティスト飯川雄大のアート作品を金沢シーサイドタウンの街の中に設置するプロジェクト。老若男女だれもが注目できる「猫」というわかりやすいモチーフ、場所に合わせて設計した大きさ（高さ9.3m、幅10m、奥行80cm）、蛍光ピンクという色によって、大きなインパクトを与え、地域話題となった。

An installation project with artwork by IIKAWA Takehiro in Kanazawa Seaside Town. An easy to understand subject, the giant fluorescent pink cat made to fit the space in which it was installed in (9.3m x 10m x 0.8m), had a significant impact, and became a topic of conversation in the local community.

2019.Nov.–Dec.



「ピンクの猫の小林さん」の庭探し

Searching a garden for "Mr. Kobayashi the Pink Cat"

2019.12.8 [Sun]



ワークショップ「ピンクの猫の小林さんの庭づくり」

講師：飯川雄大（アーティスト）、石井直樹（石井造園株式会社）

会場：並木ラボ（横浜市金沢区並木 1- 17-7、1F）

空間や風景に擬態（ぎたい）する「ピンクの猫の小林さん」の小さな庭をつくる盆栽ワークショップを開催。ワークショップ後は、1年間盆栽を育てることに挑戦。参加者とは定期的にメールのやり取りを行い、変化する庭の様子を共有した。

"Make a Garden for Mr. Kobayashi the Pink Cat" Workshop

Lecturer: IIKAWA Takehiro (Artist), ISHII Naoki (Ishii Landscaping Co., Ltd.)

Venue: Namiki Lab (1-17-7 Namiki, Kanazawa-ku, 1F)

A bonsai workshop was held to create small gardens that reflect the landscape for "Mr. Kobayashi, the Pink Cat". After the workshop, participants were challenged to grow their bonsai for one year. Emails were exchanged on a regular basis to share the changing landscapes of the gardens.



2020 年度「ナミキアートプラス」では参加者から送られてきた庭の写真展を開催

In 2020 Namiki Art Plus held a photo exhibition of gardens sent by the participants.

2019.Dec.–



「ピンクの猫の小林さん」の庭決定

作品設置場所が「並木クリニック」に決定。庭や建物の採寸を行い、この場所に合わせた「ピンクの猫の小林さん」を設計した。

"Mr. Kobayashi the Pink Cat's Garden" Decision

Namiki Clinic was chosen as the installation location. Measurements were taken of the garden and building, and "Mr. Kobayashi the Pink Cat" was designed to fit in this space.

2020.1.22 [Wed.]–1.30 [Thu.]



公開制作

場所：並木クリニック
（横浜市金沢区並木 2-9-4）

Open Studio

Venue: Namiki Clinic
(2-9-4 Namiki, Kanazawa-ku, Yokohama)

2020.1.31 [Fri.]–3.1 [Sun.]

展示期間 Exhibition Period



飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》

場所：並木クリニック（横浜市金沢区並木 2-9-4）

協賛：シンロイヒ株式会社

協力：並木クリニック、並木コミュニティハウス、ミハマ通商株式会社、
横浜金沢シーサイドタウンエリアマネジメント協議会（あしたタウンプロジェクト）
石井造園株式会社、株式会社横浜シーサイドライン、tmsd 萬田隆備造設計事務所、
建築設計加藤住吉一級建築士事務所、一級建築士事務所スタジオ・デンデン

IIKAWA Takehiro DECORATOR CRAB : Mr. Kobayashi, the Pink Cat

Venue: Namiki Clinic (2-9-4 Namiki, Kanazawa-ku, Yokohama)

Support: ShinLohi Co.

Cooperation: Namiki Clinic, Namiki Community House, Mihama Trading Co.
Yokohama Kanazawa Seaside Town Area Management Council (Tomorrow Town Project),
Ishii Landscaping Co., Yokohama Seaside Line Corporation,
tmsd Manda Takashi Structural Design Office,
Kenchiku Sekkei Kato Sumiyoshi First-Class Architect Office,
First-Class Registered Architect Office Studio Denden

同時開催「猫の小林さんが大きい理由」展

期間：2020 年 1 月 31 日（金）～2 月 28 日（金） 9:00～21:00

場所：並木コミュニティハウス（横浜市金沢区並木 2-8-1）

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2 月 29 日～3 月 1 日は展示中止

Concurrent Exhibition "Why is Mr.Kobayashi the Pink Cat huge?"

Period: 2020 Jan. 31(Fri.) – Feb. 28 (Fri) 9:00–21:00

Venue: Namiki Clinic (2-9-4 Namiki, Kanazawa-ku, Yokohama)

*Due to the the new coronavirus infection, this exhibition was suspended from Feb. 29 to Mar. 1.

まちに現れたアート

ー公・私の交差点としてのパブリックアートの可能性ー

2021年1月16日から2週間余りで幕を閉じた「ナミキアートプラス-並木のパブリックアートプロジェクト」。3組のアーティストがそれぞれの表現手法に基づいて作品をまちなかに展開しました。年明け早々に2回目の緊急事態宣言が発出されたなかで開催された展覧会ではあるものの、当初の「ねらい」としては、金沢シーサイドタウンに住まう方々の身近な存在として、アートを楽しんで頂くことと、アーティストの活動や存在を受け入れて頂くことにありました。奇しくもそれが、緊急事態宣言によって、他地域からの来場をコントロールする形ともなったほか、コロナ禍において、生活圏に目が行きやすい状況とも重なり、地域密着性をより強くしたように思えます。

また本プロジェクトはパブリックアートという表現行為を通じて「公」なるものへいかに「私」がアプローチできるかという点も試みられています。キム・ガウンの一連の作品では、作品をみる「私」が風景の一部となったり、まちの歴史や場所の記憶と交差する「私」であったり、公共空間におかれた作品を通じて「私」がその場所に投影されるような作品でした。また、池田光宏の作品「BGAプロジェクト／横浜・並木のアートシーン」は、個人が所有する何気ないコレクションに着目し、それを個展が開催されているかのような広告(バナー)として商店街に展示することで、普段公開されることがない私的趣向性が

公共空間に展開されました。さらには、orangcosongの「演劇クエスト-白昼のバスケット冒険団とふしぎな依頼人たち-」は、まちにまつわる依頼人に導かれて並木というまちを舞台に冒険するゲームブックですが、冒険者である「私」とまち、といった関係に留まらず、過去と現在、社会と私など多層的に公・私をつなぐメディアになっているといえます。

このように、今回のアートプロジェクトは、個々人が持つ記憶や愛着といった「私」を「公」の空間に落とし込むかのように展開されており、アート作品を介して公・私の交わりをまちに投影することに成功したといえるのではないのでしょうか。

「まち」というものは、もちろん個人の所有物ではなく、みんなのものである一方、やはりそこには個人の思い入れ・愛着・記憶といった様々な思いが刻まれています。ニュータウンとして開発された金沢シーサイドタウンも入居開始から40余年が経過し、史実に基づくまちの歴史とともに、生活の積み重ねから生まれてくる「まちの記憶」を改めて感じることができました。また、作品設置場所に関するご意見や、期間の短さ、広報力の弱さに関するご指摘など様々な声がインフォメーションに寄せられました。これも、まちに対する愛着の表れであるとともに当該プロジェクトへのエールと受け止め、次年度以降の展開につながることを期待したいと思います。

上野 正也 神奈川大学工学部建築学科特別助教

Art Appearing in Town

ー The Possibilities of Public Art as a Public / Private Intersection ー

The "Namiki Art Plus: A Public Art Project in Namiki" ended around two weeks after 16 January 2021. Three groups of artists presented works according to their respective methods of expression. Although the exhibition was held in the midst of the second state of emergency issued early in the new year, the initial aim was for the people of Kanazawa Seaside Town to have the opportunity to enjoy art in their local area, and to become aware and accepting of artists and their work. Strangely, I think the state of emergency during this period strengthened community ties. It made it easier to control the number of people coming in from outside the town, and peoples' lives amidst the pandemic put them in the right mindset for looking around the local area.

For this project, we also wanted to explore how the private individual could approach the public through public art. In KIM Gaeun's series of works, the individual looking at the artworks would become part of the scene, or interact with the history and memories of a place. It was as though we, the individuals, were projected onto this work placed in a public space. IKEDA Mitsuhiro's *BGA Project / Namiki Yokohama Art Scene* focuses on privately owned casual collections, and displays them on banners in the shopping district as though advertising solo exhibitions, bringing personal tastes into the public sphere. And last but not least, orangcosong's gamebook *Engeki Quest: The Daylight Basket Adventurers' Guild and Mysterious Clients* is a multilayered medium, not only leading visitors around the town of Namiki as adventurers, but connecting past with the present, and society with the individual.

In these ways, this art project seems to bring individual peoples' memories and attachments into public spaces. It's as if, in these various ways, this art project has dropped peoples' private memories and attachments into the public sphere—I think it could be said that we have succeeded in representing the relationships between public and private through these artworks.

Of course, a town does not belong to an individual, but rather belongs to everyone. Yet there are many personal feelings, affections and memories attached to a town. More than 40 years have now passed since Kanazawa Seaside Town was developed, and I was able to appreciate once again the "memories of the town" born out of the accumulation of life, as well as the historical facts of the area. We also had a lot of opinions from various people on things like the location for the installation, the length of the exhibition and weaknesses in the publicity. These are also signs of affection for the town, and I would like to accept them as support for the project, and hope that they will lead to further development in the next year and beyond.

UENO Masaya (Kanagawa University)

謝辞（敬称略、順不同）

ナミキアートプラス開催にあたり、ご協力いただきました皆さまに深く御礼申し上げます。

金沢シーサイドタウン連合自治会／金沢センターシーサイド名店会／
富岡並木ふなだまり gionbune 公園愛護会／
独立行政法人都市再生機構神奈川エリア経営部／横浜市立並木第一小学校／
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／金沢区役所／金沢土木事務所／
横浜市文化観光局／株式会社東京ベイガード

- キム・ガウン「旅がくれた贈り物」
安部寿紗、市村良輔、葉栗翠、平下英理（制作アシスタント）、
吉本直紀（映像制作）
- 池田光宏「BGA プロジェクト」
ただ（コレクション撮影）、岡本憲昭（映像制作）、岩澤夏帆
コレクションを提供くださったみなさま
- orangcosong「演劇クエスト」
中西正彦、【236-0005】並木ウェブマガジン（リサーチ協力）
進士遙（イラストレーション）
公益財団法人セゾン文化財団（藤原ちからへのアーティスト助成）

開催概要

タイトル ナミキアートプラスー並木のパブリックアートプロジェクトー
展示期間 2021年1月16日（土）～1月31日（日）
会場 金沢シーサイドタウンの屋外各所
インフォメーション 並木ラボ（金沢区並木1-17-7）
主催 YOKOHAMA AIR ACT実行委員会
共催 横浜金沢シーサイドエリアマネジメント協議会（あしたタウンプロジェクト）
助成 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市
参加アーティスト キム・ガウン、池田光宏、orangcosong

YOKOHAMA AIR ACT 実行委員会

YOKOHAMA AIR ACT 実行委員会は、横浜市創造都市施策の一環で創造界隈拠点形成事業が進められている都心臨海部と、郊外部をアートによってつなぐことを目的に、2019年に発足しました。「日常生活の延長線上でアートに出会う」をコンセプトに、AIR（アーティスト・イン・レジデンス）を通した作品制作、ワークショップ等を実施し、郊外部においてアートがまちにもたらす可能性を探ります。

2020年度 プロジェクトチーム

ディレクター 山野真悟
プロジェクトマネージャー 立石沙織
プロジェクトコーディネーター 北野翔平
評価アドバイザー 上野正也（神奈川大学）
作品施工 久地岡聡志（次元事務所）、錦工業、杉山孝貴
VIデザイン 山田崇之
ウェブデザイン 北野翔平
コミュニケーション・デザイン 青木邦彦

Acknowledgments

We would like to express our deep gratitude to everyone who cooperated in holding Namiki Art Plus.

Kanazawa Seaside Town Union Autonomous Society,
Kanazawa Center Seaside Shop Association,
Tomioka-Namiki Funadamari gionbune Park Protection Society,
URBAN RENAISSANCE AGENCY (UR) Kanagawa Area
Housing Management Department,
Yokohama City Namiki Daiichi Elementary School,
YOKOHAMA ARTS FOUNDATION, Yokohama City,
Tokyo Bay Guard Co., Ltd.

- KIM Gaeun *A Gift From Journey*
Assistant of works : ABE Kazusa, ICHIMURA Ryosuke,
HAGURI Midori, HIRASHITA Eri
Video : YOSHIMOTO Naoki
- IKEDA Mitsuhiro *BGA Project*
Photographer : Tada(Yukai)
Cinematographer : OKAMOTO Noriaki, KAWASE Kazue
Video and Music : OKAMOTO Noriaki
Coordinator : IWASAWA Natsuho
Everyone who provided the collection
- orangcosong *Engeki Quest*
Cooperation for Research : NAKANISHI Masahiko,
【236-0005】Namiki Web Magazine
Illustration : SHINJI Haruka
Support for FUJIWARA Chikara : Saison Foundation

Outline

Title Namiki Art Plus: A Public Art Project in Namiki
Dates 16th January ~ 31th January, 2021
Venue Kanazawa Sea Side Town
Information Namiki Lab (1-17-7, Namiki, Kanazawa-ku)
Organiser YOKOHAMA AIR ACT Executive Committee
Co-organiser Yokohama Kanazawa Area Management
Committee (Ashita town project)
Support YOKOHAMA ARTS FOUNDATION, Yokohama City
Artists KIM Gaeun, IKEDA Mitsuhiro, orangcosong

YOKOHAMA AIR ACT Executive Committee

The YOKOHAMA AIR ACT Executive Committee was established in 2019 with the aim of connecting the city center coastal area and the suburbs, where the creative area base formation project is being promoted as part of the Yokohama City Creative City Policy, with art. Based on the concept of "encountering art as an extension of everyday life," we will hold work productions and workshops through AIR (Artist in Residence) to explore the possibilities that art brings to the city in the suburbs.

Project Team 2020

Director YAMANO Shingo
Project Manager TATEISHI Saori
Project Coordinator KITANO Shohei
Evaluation Advisor UENO Masaya (Kanagawa University)
Installer KUCHIOKA Satoshi (Jigen Office) ,
Nishiki Kogyo, SUGIYAMA Koki
VI design YAMADA Takayuki
Web design KITANO Shohei
Communication Design AOKI Kunihiro

ナミキアートプラスー並木のパブリックアートプロジェクトー記録集

Namiki Art Plus: A Public Art Project in Namiki

2021年3月発行 Published March 2021

編集・発行 YOKOHAMA AIR ACT 実行委員会
Published and edited TEL : 045-261-5467 E-mail : namikiartplus@koganecho.net
〒231-0054 横浜市中区黄金町1-4 先 黄金町エリアマネジメントセンター内
YOKOHAMA AIR ACT Executive Committee
TEL : +81(0)45-261-5467 E-mail : namikiartplus@koganecho.net
Koganecho Area Management Center, 1-4 Koganecho Naka-ku, Yokohama, 231-0054

英訳 Translation 本田舞 (Taz Barns)
写真 Photography 笠木靖之 KASAGI Yasuyuki [表紙、P4～9、11、13(上)、16(左上・右上)、19(下)、20～23、32(下)]
川瀬一絵 KAWASE Kazue [P12、13(中央・下)、14～15、19(上)]
飯川雄大 IIKAWA Takehiro [P32(左中央・右中央)、33(左上)]
阪中隆文 SAKANAKA Takafumi [P33(下)]



